

# 外国語科学習指導案

日時 令和2年6月2日(火) 4校時  
対象 3年5組 男子18名 女子18名 計36名  
指導者 教諭 永峯 枝里子

## 1 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 3 The 5 Rs to Save the Earth

### 2 本時の計画

#### (1) 本時のタスク

「台湾の取組を知り、考えを共有しよう」

#### (2) 指導の重点

「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」

#### (3) 本時の目標行動

導入時において、教師とのやり取りを通して、large task 「What can we do to save our lives?」に向けた前時の授業や家庭学習における課題を再確認する。インタラクションとして、昨年度国立台北教育大学からやって来た教育実習生と Zoom を通して、新型コロナウイルスに関する情報のやり取りを行う。やり取りの中で出てきた新出の言語材料を確認した後、本時のタスクを主体的に設定し、新出の言語材料の練習を行う。その後、教科書本文の聞き取りを行い、教師とのやり取りを通して、本文の概要を捉える。内容理解としての事実発問、推論発問から、日常生活における環境活動について理解を深め、評価発問として、対話をしている二人の国のどちらが環境保全に努めているのかを考える。その後、教科書本文の内容理解を踏まえて、教科書の音読練習を行う。次に、台湾が取り組んだ感染予防に関する具体的な取組をグループで共有するアクティビティに取り組む。共有し、一番面白いと思った記事について整理した後に台湾の実習生とのインタラクションで自分の意見を伝え、考えを深めていく。終末時には、ルーブリックシートを基に、自己課題の達成状況や今後の見通し、家庭学習の内容を確認する。

#### (4) 本時の指導目標

ア It's + ~ (+ for ~) + to 不定詞を用いた文構造の形、意味、用法を理解させる。言語材料を活用して、他者と感染予防に対する自分の意見や考えを共有させたり伝え合ったりさせる。

【知識・技能】

イ 台湾の新型コロナウイルス感染感染予防について、自分の考えや思いなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えさせる。

【思考・判断・表現】

ウ 台湾の新型コロナウイルス感染感染予防について、自分の考えや思いなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えようとさせる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(5) 本時の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	(知識) ・ It + be 動詞 (+ for ~) + to 不定詞の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能) ・ It's + ~ (+ for ~) + to 不定詞を活用して、環境問題について書かれた教科書本文の内容を聞き取る技能を身に付けている。	・ 社会における諸問題に対して自分の意見や考えを発信するために、環境問題について話された教科書本文から必要な情報を聞き取ることができる。	・ 社会における諸問題に対して自分の意見や考えを発信するために、環境問題について話された教科書本文から必要な情報を聞き取ろうとしている。
読むこと	(知識) ・ It + be 動詞 (+ for ~) + to 不定詞の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能) ・ It + be 動詞 (+ for ~) + to 不定詞を活用して、環境問題について書かれた内容を読み取る技能を身に付けている。	・ 社会における諸問題に対して自分の意見や考えを発信するために、環境問題について書かれた教科書本文から必要な情報を捉えている。	・ 社会における諸問題に対して自分の意見や考えを発信するために、環境問題について書かれた教科書本文から必要な情報を捉えようとしている。
話すこと 〔やり取り〕	(知識) ・ It + be 動詞 (+ for ~) + to 不定詞の特徴や決まりに関する事項を理解している。 (技能) ・ 環境問題について聞いたことについて、事実や自分の考えを、It + be 動詞 (+ for ~) + to 不定詞を用いて、即興で伝え合っている。	・ 台湾の新型コロナウイルス感染症予防について、自分の考えや思いなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えている。	・ 台湾の新型コロナウイルス感染症予防について、自分の考えや思いなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えようとしている。

(6) 本時の授業設計の工夫

「豊かなコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けた生徒」を育成するための指導として、本時における三つの活動に関連した指導の工夫点である。

ア 事実発問、推論発問、評価発問

「①読み解き・対話する活動を充実させるための指導の工夫」

「②思考・吟味する活動を充実させるための指導の工夫」

今回の授業では、推論発問に焦点を当て、文中に示されるキーワードを基に、その文から状況やイメージを読み手が連想する精緻化推論に取り組ませ、生徒同士のやり取りを行わせた。この発問を行うことで、相手の考えや意図を深く理解させることに繋げる。

本時の事実発問：How does Lisa say this trash? 等

推論発問：Which country tries 3Rs more, America or Japan?

評価発問：Do you try 3Rs every day?

イ 外部人材の活用

「カリキュラム・デザインの工夫」

国立台北教育大学の教育実習生とのリモート対話の聞き取りをさせる。直接体験の機会を持たせることで、主体的に学習に取り組む態度や、他者と協働することの重要性などを実感させる機会を設定する。

#### ウ ループリクシートにおける自己課題設定

「②思考・吟味する活動を充実させるための指導の工夫」

「③価値を見つけ・生み出す活動を充実させるための指導の工夫」

前単元の large task 「桜島の魅力を伝えよう」を解決した結果、見いだした新たな自己課題を本単元では設定させる。内容理解や言語理解に焦点を当て自己課題を設定させることで、自分自身で価値を見だし、見通しを立てて思考する力を身に付けさせたい。

#### エ プレゼンテーション指導

「③価値を見つけ・生み出す活動を充実させるための指導の工夫」

単元終末によりよいプレゼンテーションに取り組めるように、本時ではキーワード提示をさせ Visual message を意識させる。本単元は、キーワードを通じて環境問題について考えていくため、生徒にとっても取り組みやすい Visual message となっている。

(7) 本時の実際 (2/9)

区分	教授=学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説 ○授業設計の工夫	
導入		5'	1 英語で体温を測ってきたか確認する。 2 英語で新しい生活様式についてやり取りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Large Task</b> を意識させることができる内容に焦点をあててやり取りを行う。</li> <li>• 新しい生活様式について調べてきているかを確認する。</li> </ul>	
展開		40'	3 Zoom を用いて、教師と教育実習生が行う、台湾における新型コロナウイルス感染予防に対する取組を聞き、そのやり取りの仕方を理解する。 4 本時のタスクを把握する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">自分たちに何ができるか考えよう</div> 5 新出の言語材料を活用して、表現の練習をする。 6 インタラクシオンを図り、本文の概要を捉える。 7 教科書本文の CD を聞く。 8 教科書本文の内容について、教師の質問に答える。 事実発問： “How does Lisa say this trash?” 等 推論発問： “Which country tries 3Rs better, America or Japan? And why?” 評価発問： “Do you try 3Rs every day?” 9 本文の音読練習を行う。 10 台湾が取り組んできたことに関する記事を読み、グループで共有し、一番興味をもったものに関して自分の考えを整理し、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新出言語材料を用いた、やり取りを行うことで、この後の活動の方法を見せる。 ○ 【授業設計の工夫 イ, エ】 国立台北教育大学の学生と Zoom で繋がることで、主体的に学びに取り組む姿勢を促す。また、実習生にキーワードカードを提示してもらうことで、分かりやすいプレゼンテーションに意識を向ける。</li> <li>• 見通しをもたせ、自己課題に近づけるようにする。</li> <li>• 新出の言語材料を表現させた後に、教師とのインタラクシオンも行うことで、表現に幅を持たせる。</li> <li>• 次の活動の <b>Listening</b> において内容を理解できるように確認をする。</li> <li>• メモを取らせながら聞かせる。</li> <li>• 教科書は閉本の状態で、事実発問や推論発問、評価発問を行い、教科書本文の再構築をする。 ◆ 教師の質問に、適切に答えることができたか。 □ 理解が十分でなかった場合は、ペア活動を取り入れた上で、もう一度 CD を聞かせる。 ○ 【授業設計の工夫 ア】 推論発問に焦点を当て、相手の考えや意図を深く理解させることに繋げる。</li> <li>• 英語の音声の特徴（音の上げ下げ、強勢等）を捉えさせた上で、ペアワークを通して練習させる。</li> <li>• <b>Visual message</b> を提示させながら他者に分かりやすく発進できるようにする。 ◆ 新出言語材料等を活用しながら、自分たちが取り組めるであろうことを伝えることができたか。 □ 問題の根拠を基に述べている生徒の意見を共有することで、より深く理解できるようにさせる。 ○ 【授業設計の工夫 エ】 キーワードカードにキーワードとなる言葉を提示し、より分かりやすいプレゼンテーションになるようにする。</li> </ul>	
	終末		5'	11 本時で学習した表現を振り返りながらまとめを行う。 12 次時について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時で表現できるようになったことや内容を確認させる。</li> <li>• ルーブリックシートを活用して、自己課題に近づけたかを振り返らせる。</li> <li>○ 【授業設計の工夫 ウ】 本時でどの程度自己課題に近づけたのかを振り返らせる。</li> <li>• 次時の見通しをもたせる。</li> </ul>

